

## 令和6年度内部質保証体制における自己点検・評価結果に基づく

### 検討事項への対応

令和6年度の内部質保証体制における自己点検・評価においては、内部質保証委員会から各部局に対し、検討を要する事項について依頼を行いました。検討依頼を受けて、各部局において取り組みが進められ、その結果について内部質保証委員会において確認および評価を行いました。

以下のとおり、検討事項に対する本学の対応状況をとりまとめた結果及び、一連の取り組みに対する内部質保証委員会としての総評について、ここに公表いたします。

検討事項	総 評
<p>(1) 卒業生（修了生）及びその就職先等への意見聴取の実施について</p> <p>すでに教育課程の学習成果・教育成果の把握に意見聴取を活用している学部・研究科及び専攻では取組を継続していただきたい。</p> <p>また、理工学研究科、獣医学研究科、連合農学研究科は令和7年度に現行課程の修了生及びその就職先等に学習成果・教育成果の把握・評価に活用することを前提に意見聴取を実施し、教育の質の向上に役立てていただきたい。</p>	<p>現行課程の修了生およびその就職先等への意見聴取について検討を依頼した3研究科において、いずれも令和7年度中に計画どおり意見聴取を実施したことを確認した。意見聴取の結果からは、修了生が各研究科で定める学位授与方針に即した能力を概ね修得していると判断され、現行の教育課程における教育成果が所定の水準を満たしていることが確認された。</p> <p>さらに、意見聴取の実施を依頼した3研究科以外の部局においても、意見聴取に関するガイドラインや教学アセスメントプランに基づき、教育の質向上に向けた取組が組織的かつ適切に進められていることが確認され、本学全体として内部質保証の枠組みが着実に機能していることが認められた。</p> <p>一方、本調査には国外で活動する博士課程修了生も含まれていたため、回答率の面ではなお改善の余地がある状況も見受けられた。本学の内部質保証の体制およびその循環を一層強固なものとするためには、回答率向上に資する具体的な方策の検討が今後の課題となる。より安定的かつ実効性の高い意見聴取体制の整備を全学的に進め、間接評価を含めた多様な意見を教育改善に反映する内部質保証体制の構築を、本委員会として着実に進めていくこととする。</p>

内部質保証体制における自己点検・評価 検討事項への対応（進捗）状況 【2025.10～2026.3（R7 下半期）】

【学部（学士課程）】

		学士課程全般／教養教育	人文社会科学部	教育学部	理工学部	農学部
		実施組織：岩手大学教務委員会	実施組織：人文社会科学部点検評価委員会	実施組織：教育学部点検評価委員会	実施組織：学部・大学院代表者会議	実施組織：農学部点検評価委員会
		責任者：山本 欣郎	責任者：丸山 仁	責任者：清水 茂幸	責任者：長田 洋	責任者：小出 章二
No.	自己点検・評価項目	対応（進捗）状況	対応（進捗）状況	対応（進捗）状況	対応（進捗）状況	対応（進捗）状況
1	<p>教育課程 自己点検・評価項目 22 卒業生（修了生）からの意見聴取の結果により、大学の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られているか。 ※卒業（修了）後に一定年限を経過した卒業生（修了生）からの意見聴取の結果により、大学の目的及び学位授与方針に則した学習成果を確認していること。</p> <p>教育課程 自己点検・評価項目 23 卒業生（修了生）の就職先等への意見聴取の結果により、大学の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られているか。 ※卒業生・修了生の就職先等の意見聴取の結果により、大学の目的及び学位授与方針に則した学習成果を確認していること。</p>	<p>理工学研究科、獣医学研究科及び連合農学研究科では、令和7年度中に修了生及び修了生の就職先にアンケート調査を行い、その結果を各研究科内で確認し、研究科での学修成果が活かされていること、教育課程に特段の問題がないこと等を確認している。</p> <p>※各研究科で確認を実施した組織 理工学研究科：R7.12.25 研究科教務委員会 獣医学研究科：R8.1.15 研究科教授会 連合農学研究科：R8.2.6 研究科代議員会</p> <p>なお、その他の学部・研究科においては、岩手大学教学アセスメントプランに基づき令和8年度に卒業生（修了生）及びその就職先への調査を実施予定である。</p>	<p>令和5（2023）年度に実施した2019年度卒業生およびその雇用先へのアンケート結果について、令和7年度第2回（6月23日）および第3回（9月5日）の学部点検評価委員会において、大学の目的及び学位授与方針に則した学修成果が得られていることを改めて確認したうえで、アンケートの質問項目等について意見交換を行い、結果を教学マネジメントセンターに報告した。</p>	<p>点検評価委員会において、令和6年度に策定したアセスメントプランに基づき、卒業後調査及び雇用先アンケートを3年に1回行うことを確認した。また、令和8年度に実施予定の次回調査に向けて、教育課程改善やキャリア教育等に活用するための方策について検討することとした。</p>	<p>令和7年12月26日開催の理工学部教務委員会において、令和5年度実施の2019年度卒業生及びその雇用先へのアンケート調査の分析結果について検討した。本学部の卒業生は大学をキャリアにおける専門知識や技能の修得の場として捉えていること、また、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の育成により注力すべきであったという意見が多く寄せられたことを確認した。さらに、卒業生の雇用先からは、本学部の卒業生が学位授与方針において定める資質を身に付けていると評価されていることが確認された一方、コミュニケーションスキルや課題探究力については、大学において一層の育成が期待されていることが明らかとなった。これを踏まえ、現在のPBL科目の継続と内容の充実等について検討することとした。</p>	<p>令和8年度のアンケート調査実施については、教学マネジメントセンターでアンケート内容等原案について検討することとなっている。このことを受け、農学部では令和8年度に当該原案の内容について農学部点検評価委員会において確認したうえで速やかにアンケートを実施する予定である。</p>
		<p>検討事項</p>				
		<p>○卒業生（修了生）及びその就職先等への意見聴取の実施について</p> <p>卒業生（修了生）及びその就職先等への意見聴取について、学部、総合科学研究科及び教育学研究科は今後も取組を継続していただきたい。理工学研究科、獣医学研究科、連合農学研究科は令和7年度に現行課程の修了生及びその就職先等に意見聴取を実施いただきたい。</p> <p>卒業（修了）後、一定年限を経た卒業生（修了生）及びその就職先等からの意見聴取については、すでに教育課程の学習成果・教育成果の把握に意見聴取を活用している学部・研究科及び専攻では取組を継続していただきたい。</p> <p>意見聴取はただ実施するだけでなく、意見聴取の結果によって学習成果の確認及び教育課程の改善を行い、学生支援の改善等に活用するまでの一体とした取組とする必要がある。学部・研究科ともに関係部局間で連携を図り、学習成果・教育成果の把握・評価に活用することを前提に意見聴取の内容について引き続き検討し、継続した意見聴取の実施により教育の質向上に役立てていただきたい。</p>				

内部質保証体制における自己点検・評価 検討事項への対応（進捗）状況 【2025.10～2026.3（R7 下半期）】  
 【大学院（修士課程、専門職学位課程）】

		総合科学研究科	総合科学研究科地域創生専攻	総合科学研究科総合化学専攻	総合科学研究科理工学専攻	総合科学研究科農学専攻	教育学研究科	
		実施組織：総合科学研究科運営委員会	実施組織：地域創生専攻運営会議	実施組織：総合化学専攻専門委員会	実施組織：学部・大学院代表者会議	実施組織：農学部点検評価委員会	実施組織：教育学研究科自己点検評価委員会	
		責任者：小藤田 久義	責任者：南 正昭	責任者：木村 直弘	責任者：長田 洋	責任者：小出 章二	責任者：柴垣 登	
No.	自己点検・評価項目	対応（進捗）状況	対応（進捗）状況	対応（進捗）状況	対応（進捗）状況	対応（進捗）状況	対応（進捗）状況	
1	<p>教育課程 自己点検・評価項目 22                      卒業生（修了生）からの意見聴取の結果により、大学の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られているか。                      ※卒業（修了）後に一定年限を経過した卒業生（修了生）からの意見聴取の結果により、大学の目的及び学位授与方針に則した学習成果を確認していること。</p> <p>教育課程 自己点検・評価項目 23                      卒業生（修了生）の就職先等への意見聴取の結果により、大学の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られているか。                      ※卒業生・修了生の就職先等の意見聴取の結果により、大学の目的及び学位授与方針に則した学習成果を確認していること。</p>	<p>第 57 回運営委員会（令和 7 年 1 月 28 日）において、令和 6 年度に策定したアセスメントプランに基づき、卒業後調査及び雇用先アンケートを 3 年に 1 回行うことを確認した。                      令和 5（2023）年度に実施した 2019 年度修了生およびその雇用先へのアンケート結果について、総合科学研究科教務専門委員長が令和 6 年度に検討・改善案を作成し、その案に基づき、令和 7 年 2 月に各専攻へアンケート結果の検証を依頼した。</p> <p>令和 7 年度第 2 回教務専門委員会（1 月 9 日）にて、各専攻から提出された学修環境やアンケート質問項目等に関する意見について確認し、継続した意見聴取の依頼を行った。</p>	<p>令和 7 年度第 10 回地域創生専攻教務委員会（1 月 22 日）において、令和 6 年度に策定したアセスメントプランに基づき、修了後調査及び雇用先アンケートを 3 年に 1 回行うことを確認した。                      令和 5（2023）年度に実施した 2019 年度修了生およびその雇用先へのアンケート結果について、総合科学研究科教務専門委員長が令和 6 年度に検討・改善案を作成し、その案に基づき、令和 7 年 2 月に各専攻へアンケート結果の検証を依頼した。</p> <p>令和 7 年度第 5 回（2 月 28 日）及び令和 7 年度第 6 回（1 月 20 日）の運営会議で、アンケート結果の確認及び意見交換を行い、アンケート結果の自由記述については一つ一つ検討しフィードバックに活かしていなかったことから、自由記述の分析方法や、フィードバックに関して意見への対処及び公表範囲・方法についてどのように対応していくかを今後検討することとした。</p> <p>また、突発的な問題なのか恒常的な問題なのか判断できるよう、複数年の統計データの作成を総合科学研究科運営委員会に依頼することとした。</p>	<p>令和 5（2023）年度に実施した 2019 年度修了生およびその雇用先へのアンケート結果について、総合科学研究科教務専門委員長が令和 6 年度に検討・改善案を作成し、その案に基づき、令和 7 年 2 月に各専攻へアンケート結果の検証を依頼した。これを受け、令和 7 年度第 12 回（9 月 24 日）および第 13 回（10 月 16 日）の専攻専門委員会で見直し等について検討することとした。</p> <p>令和 8 年 1 月 9 日開催の総合科学研究科教務専門委員会において、各専攻から提出された学修環境やアンケート質問項目等に関する意見が共有され、本件については令和 8 年 1 月 22 日開催の理工学専攻教務委員会において確認、意見交換が行われ、継続して検討することとした。</p>	<p>令和 7 年 2 月に総合科学研究科教務専門委員会から各専攻に対し、令和 5 年度に実施した 2019 年度修了生及びその雇用先へのアンケート調査結果を踏まえ、検証・改善案について確認要請があったことを受け、令和 7 年 3 月 21 日開催の理工学専攻教務委員会において内容を確認し、令和 7 年度の意見集約に向け、検証・改善案への意見やアンケートの設問見直し等について検討することとした。</p> <p>令和 8 年 1 月 9 日開催の総合科学研究科教務専門委員会では、各専攻の検討・改善案等の内容を確認し、意見交換を行った。</p> <p>令和 8 年度のアンケート調査実施に向けて、引き続き各専攻で調査項目や教育課程の改善につながる意見等を徴取することとした。</p>	<p>令和 7 年 9 月から 11 月にかけて、岩手県内に就職した令和 6 年度の修了生及び修了生勤務先所属長等に対して、訪問調査を実施した。訪問時の聴き取り調査に加え、学修成果の把握・評価との観点からの質問項目を入れたアンケート調査を実施した。</p> <p>なお、例年通り、修了後 2 年になる修了生にも、書面によるアンケート調査を実施した。</p> <p>専門実習委員会（令和 8 年 1 月 13 日）において、訪問調査及びアンケート調査の結果から、学位授与方針 6 項目を修了生が教育活動等の中でどのように活かしているかについて検討・協議した。その結果、教職大学院での多様な専門性の学びが日々の教育活動及び地域貢献に活かされていることが確認された。</p> <p>また、このことを踏まえ、教職大学院の教育活動を継続して取り組んでいくこと及び日々の授業と専門実習との結びつきを深めていくことの必要性を確認した。</p>		
		検討事項						
		○卒業生（修了生）及びその就職先等への意見聴取の実施について						

内部質保証体制における自己点検・評価 検討事項への対応（進捗）状況 【2025.10～2026.3（R7 下半期）】  
【大学院（博士課程）】

		理工学研究科	獣医学研究科	連合農学研究科
		実施組織：学部・大学院代表者会議	実施組織：獣医学研究科運営委員会	実施組織：連合農学研究科点検評価委員会
		責任者：長田 洋	責任者：村上 賢二	責任者：伊藤 菊一
No.	自己点検・評価項目	対応（進捗）状況	対応（進捗）状況	対応（進捗）状況
1	<p>教育課程 自己点検・評価項目 22 卒業生（修了生）からの意見聴取の結果により、大学の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られているか。 ※卒業（修了）後に一定年限を経過した卒業生（修了生）からの意見聴取の結果により、大学の目的及び学位授与方針に則した学習成果を確認していること。</p> <p>教育課程 自己点検・評価項目 23 卒業生（修了生）の就職先等への意見聴取の結果により、大学の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られているか。 ※卒業生・修了生の就職先等の意見聴取の結果により、大学の目的及び学位授与方針に則した学習成果を確認していること。</p>	<p>令和7年度に修了後3年を経過した理工学研究科修了生及びその雇用先を対象としたアンケート調査を実施するため、研究科内でアンケート項目等の検討を行い、令和7年11月16日から令和7年12月15日の期間でアンケート調査を実施した。 アンケート結果については令和7年12月25日開催の理工学研究科教務委員会及び令和8年3月3日開催の学部・大学院代表者会議において確認、共有し、アンケートを通じて、理工学研究科修了生が本研究科での学修を通じて身に付けた能力や専門性を活かし、リーダーシップを発揮して活躍し、雇用先から評価されていることを確認した。</p>	<p>○修了生及びその就職先等への意見聴取の実施について 獣医学研究科では、修了後3年を経過した修了生並びにその雇用先を対象とした意見聴取（アンケート調査）を令和7年10月10日から12月19日の期間で実施した。 実施の結果、対象修了学生9名に対し回答者4名、雇用先からは2件の回答を得た。 なお、アンケートの結果については令和8年1月8日の獣医学研究科運営委員会及び1月15日の獣医学研究科教授会で内容について共有し、概ね研究科の教育内容に満足している旨の回答であり、学位授与方針に即した学修成果が得られていることを確認した。</p>	<p>令和7年11月7日開催の代議員会で2020年度～2022年度修了生と雇用先に対して、アンケートを実施することを決定した。前回調査は、日本人と国内在住の外国人を対象としていたが、今回のアンケートから海外在住者も含めて修了生全員にアンケートを送付した。令和8年2月6日の代議員会でアンケート結果を報告し、就職先からの回答数は少ないものの特に問題等はないことを確認した。</p>
	検討事項			
	<p>○卒業生（修了生）及びその就職先等への意見聴取の実施について</p> <p>卒業生（修了生）及びその就職先等への意見聴取について、学部、総合科学研究科及び教育学研究科は今後も取組を継続していただきたい。理工学研究科、獣医学研究科、連合農学研究科は令和7年度に現行課程の修了生及びその就職先等に意見聴取を実施いただきたい。</p> <p>卒業（修了）後、一定年限を経た卒業生（修了生）及びその就職先等からの意見聴取については、すでに教育課程の学習成果・教育成果の把握に意見聴取を活用している学部・研究科及び専攻では取組を継続していただきたい。</p> <p>意見聴取はただ実施するだけでなく、意見聴取の結果によって学習成果の確認及び教育課程の改善を行い、学生支援の改善等に活用するまでの一体とした取組とする必要がある。学部・研究科ともに関係部局間で連携を図り、学習成果・教育成果の把握・評価に活用することを前提に意見聴取の内容について引き続き検討し、継続した意見聴取の実施により教育の質向上に役立てていただきたい。</p>			